

年間指導計画表(シラバス)

科目名	マーケティング	単位数	4単位
		学年等	2年生(流通マーケティングコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	マーケティング(実教出版) 新課程マーケティング 準拠問題集(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	企業における事例など実際のマーケティングと関連付けて、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。	マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を身に付けている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて自ら学び主体的かつ協働的に取り組み、自身の専門性を深化させようとしている。
評価点	125点	125点	125点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	学習に対する心構え 第1章 マーケティングの概要 第2章 消費者行動の理解 第3章 市場調査 第4章 STP 広島経済大学 高大連携授業 「使って学ぶマーケティング」Ⅰ 事例研究・発表	定期テスト2回	・定期テスト2回 ・グループワークでの取組状況 ・事例研究の取組状況	・授業中の行動観察 ・学習課題の取組状況(ワークシート記述内容等) ・グループワークでの取組状況 ・事例研究の取組状況
	評価点	50点	50点	50点
2	第5章 製品政策 第6章 価格政策 第7章 チャンネル政策 第8章 プロモーション政策	定期テスト2回	・定期テスト2回 ・グループワークでの取組状況	・インターンシップの参加 ・授業中の行動観察 ・学習課題の取組状況(ワークシ

	広島経済大学 高大連携授業 「使って学ぶマーケティング」Ⅱ 事例研究・発表		・事例研究の取組状況	ート記述内容等) ・グループワークでの取組状況
	評価点	50点	50点	50点
3	第8章 プロモーション政策 第9章 マーケティングのひろがり 広島経済大学 高大連携授業 「使って学ぶマーケティング」Ⅲ 事例研究・発表	定期テスト1回	・定期テスト1回 ・事例研究の取組状況	・授業中の行動観察 ・学習課題の取組状況 (ワークシート記述内容等) ・グループワークでの取組状況
	評価点	25点	25点	25点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	学習に対する心構え 第1章 マーケティングの概要 1. マーケティングの歴史と発展 2. 現代の市場とマーケティング 3. マーケティング環境の分析 4. マーケティング・マネジメント	1 12
	5	第2章 消費者行動の理解 1. 消費者の心理と行動の関係 2. 購買意思決定過程 3. 消費者行動に影響を与える要因	12
	6	第3章 市場調査 1. 市場調査の概要 2. 市場調査の手順 3. 仮説検証の手順 4. 実態調査の方法	12
	7	第4章 STP 1. セグメンテーション 2. ターゲティング 3. ポジショニング 広島経済大学 高大連携授業 「使って学ぶマーケティング」Ⅰ 事例研究・発表	12 6
		1学期中間試験 1学期期末試験	
2	9	第5章 製品政策 1. 製品政策の概要 2. 新製品開発 3. 販売計画と生産計画 4. 製品政策の動向	16
	10	第6章 価格政策 1. 価格政策の概要 2. 価格の設定方法 3. 価格政策の動向	12
	11	第7章 チャネル政策 1. チャネル政策の概要 2. チャネルの選択と管理 3. チャネル政策の動向	9
	12	第8章 プロモーション政策 1. プロモーション政策の概要 2. プロモーションの種類 広島経済大学 高大連携授業 「使って学ぶマーケティング」Ⅱ 事例研究・発表	8 6
		2学期中間試験 2学期期末試験	

3	1	第8章 プロモーション政策 3. プロモーション政策の動向	4
	2	全商 商業経済検定試験 問題研究と分析	6
	3	第9章 マーケティングのひろがり 1. さまざまなマーケティング戦略 2. サービス・マーケティング 3. 小売マーケティング 4. 観光地マーケティング 5. グローバル・マーケティング 6. ソーシャル・マーケティング 広島経済大学 高大連携授業 「使って学ぶマーケティング」Ⅲ 事例研究・発表	18
		学年末試験	6

定期試験5時間を合わせて 合計 140 時間

5 その他

① 高大連携授業など

講師 広島経済大学 教授 細井謙一氏 学習テーマ「使って学ぶマーケティング」など多数の講師の方を招きます。

② この科目は、流通マーケティングコースを選択した生徒が専門的に取り組む科目です。自分自身の専門性を深めるために興味、関心を持って取り組んでいきましょう。学ぶ内容は、時代の変化とともにさらに進化し、また多岐にわたっているので日々のビジネスに関する情報には興味を待って触れていきましょう。

③ 資格取得、高大連携授業など内容は、盛りだくさんなので、整理しながら、主体的に取り組んでいきましょう。

④ マーケティングに関する具体的な事例も取り上げていくので、マーケティングに関する情報を分析でき、深く掘り下げることのできる力を身につけていきましょう。

⑤ 夏休みと春休みに実施されるインターンシップは全員必修です。夏休みのインターンシップのみ主体的な態度に係り加点対象とします。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	マーケティング	単位数	3単位
		学年等	2年生(広報プロデュースコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	マーケティング(実教出版) 新課程マーケティング 準拠問題集(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。ニュース記事や社会・経済分野の関係資料から、授業で学んだ事項について整理しようとしている。	マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。また、授業で提示する様々な分析手法や調査手段等を活用し、実践しようとしている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。あわせて、世の中の事象に興味関心をもち、情報収集をしようとしている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 期	マーケティングの儀容 消費者行動の理解 市場調査 STP	定期試験等 小テスト ワークシートの記述 分析	定期試験等 小テスト ワークシートの記述 分析	学習課題等 ワークシートの記述 分析
	評価点	100点	100点	100点
2 期	製品政策 価格政策 チャネル政策	定期試験等 小テスト ワークシートの記述 分析	定期試験等 小テスト ワークシートの記述 分析	学習課題等 ワークシートの記述 分析
	評価点	100点	100点	100点
3 期	プロモーション政策 マーケティングのひろがり	定期試験等 小テスト ワークシートの記述 分析	定期試験等 小テスト ワークシートの記述 分析	学習課題等 ワークシートの記述 分析
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	マーケティングの概要 ・マーケティングの歴史と発展 ・現代の市場とマーケティング ・マーケティングの環境の分析 ・マーケティング・マネジメント	8
	5	消費者行動の理解 ・消費者の心理と行動の関係 ・購買意思決定過程 ・消費者行動に影響を与える要因	10
	6	市場調査 ・市場調査の概要 ・市場調査の手順 ・仮説検証の手順 ・実態調査の方法	12
	7	STP ・セグメンテーション ・ターゲティング ・ポジショニング	10
		市場調査演習	
		1学期中間試験	
		1学期期末試験	
2 期	8	製品政策 ・製品政策の概要 ・新製品開発	12
	9	・販売計画と生産計画 ・製品政策の動向	
	10	価格政策 ・価格政策の概要 ・価格の設定方法 ・価格政策の動向	12
	11	チャネル政策 ・チャネル政策の概要 ・チャネルの選択と管理 ・チャネル政策の動向	12
	12	プロモーション政策 ・プロモーション政策の概要 ・プロモーションの種類 ・プロモーション政策の動向	12
		広告政策演習	
		2学期中間試験	
		2学期期末試験	
3 期	1	プロモーション政策 ・プロモーション政策の概要 ・プロモーションの種類 ・プロモーションの政策と動向	8
	2	広告政策演習 マーケティングのひろがり ・さまざまなマーケティング ・サービス・マーケティング ・小売マーケティング ・観光地マーケティング	7
	3	・グローバル・マーケティング ・ソーシャル・マーケティング	
		学年末試験	
		振り返り	2

5 その他

この授業では、マーケティングを活用して、「顧客・市場の情報を活用する力」を身に付けるために、主体的な姿勢が必要です。マーケティングの理論を活用し、その効果を分析します。ビジネスの実践力を応用して、社会貢献を実現します。他の人と対話や協働作業を繰り返しながら、科学的な根拠を持ち、自分の言葉で表現できるよう、取り組んでいきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	観光ビジネス	単位数	4単位
		学年等	2年生(観光ビジネスコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	観光ビジネス(実教出版) はじめて学ぶ世界遺産50(NPO 法人世界遺産アカデミー／世界遺産検定事務局)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	企業における多様な事例など、実際の観光ビジネスと関連付け実務に即して体系的・系統的に理解しているとともに、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。	観光ビジネスの知識・技術を活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、顧客や市場の動向、観光ビジネスに関する理論やデータなどの科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を身に付けている	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的にかつ責任をもって取り組もうとしている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学 期	第1章 観光ビジネスの概要 第2章 観光ビジネスの主な産業 国内の観光資源① 広島県の観光資源① 世界遺産に関する学習 I	定期考査 小テスト等 ワークシートの記述 分析	定期考査 小テスト等 ワークシートの記述 分析 授業中の行動観察	学習課題等 ワークシートの記述 分析 授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
2 学 期	第3章 観光ビジネスのマーケティング 第4章 観光資源の発見と活用 国内の観光資源② 広島県の観光資源② ガイド実習に関する学習 I 修学旅行に関する学習 世界遺産に関する学習 II	定期考査 小テスト等 ワークシートの記述 分析	定期考査 小テスト等 ワークシートの記述 分析 授業中の行動観察	学習課題等 ワークシートの記述 分析 授業中の行動観察
	評価点	100 点	100 点	100 点
3 学	第5章 地方自治体の観光政策 第6章 観光ビジネスと観光まちづくり	定期考査 小テスト等	定期考査 小テスト等	学習課題等 ワークシートの記述
	評価点	100 点	100 点	100 点

期	国内の観光資源③	ワークシートの記述	ワークシートの記述	分析
	ガイド実習に関する学習Ⅱ	分析	分析	授業中の行動観察
	世界遺産に関する学習Ⅲ		授業中の行動観察	
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	国内旅行実務 広島県の観光資源① 広島県の概要・県内の主な農産品、幹線、歴史、県内の主な観光資源	12
	5	第1章 観光ビジネスの概要 観光ビジネスの担い手、観光ビジネスの動向、日本の観光政策、観光ビジネスと地域	12
		国内の観光資源① 北海道・東北地方	
		第2章 観光ビジネスの主な産業	
	6	旅行業、宿泊業、宿泊輸送業、娯楽業、その他の産業	14
		1学期期末考査	
		世界遺産に関する学習Ⅰ	10
2 学 期	7	世界遺産の基礎知識、日本の世界遺産、世界遺産検定の学習	
	8	世界遺産に関する学習Ⅱ 世界遺産の基礎知識、世界の世界遺産、世界遺産検定の学習	6
	9	修学旅行に関する学習 ガイド実習に関する学習Ⅰ	6 10
		国内旅行実務 広島県の観光資源② 広島市の概要・市内の主な農産品、幹線、歴史、市内の主な観光資源	
	10	第3章 観光ビジネスのマーケティング 観光ビジネスの顧客、観光ビジネスにおけるマーケティングの意義、 観光ビジネスのマーケティング戦略	16
	11	第4章 観光資源の発見と活用 観光資源とは何か、観光資源の保護と保全	16
		2学期期末考査	
3 学 期	12	国内の観光資源② 関東地方、中部地方、近畿地方	12
	1	ガイド実習に関する学習Ⅱ 第5章 地方自治体の観光政策 地方自治体の観光政策の概要、地方自治体の観光政策の実施内容	10
	2	第6章 観光ビジネスと観光まちづくり 観光まちづくりとは何か、観光まちづくりと地域の活性化 国内の観光資源③ 中国地方、四国地方、九州地方	10
		世界遺産に関する学習Ⅲ 世界遺産検定の学習	
	3	学年末考査	
		一年間の学習のまとめ	6

5 その他

○ガイド実習や地域の現状を理解し活性化を研究するための実習を土日などの課外授業で行うことがあります。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	財務会計Ⅰ	単位数	3単位
		学年等	2年生 (流通マーケティング・観光ビジネス・広報プロデュース・金融ライフデザイン・ビジネス実務・ITエンジニア・ネットビジネスコース)

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。 (3)会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	高校財務会計Ⅰ(実教出版) 最新段階式簿記検定問題集全商2級・全商1級会計(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業会計に関する法規に照らして会計処理方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析している。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1学期	財務会計の基礎 資産	定期考査等	定期考査等	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点
2学期	負債と純資産 損益計算 財務諸表の作成と活用	夏課題テスト 定期考査等	夏課題テスト 定期考査等	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点
3学期	連結財務諸表	冬課題テスト 定期考査等	冬課題テスト 定期考査等	・学習課題等 ・ワークシートの記述分析
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	財務会計の基礎 企業と企業会計 企業会計制度と会計基準	9
	5	資産 資産の分類と評価 流動資産(当座資産) 1学期中間審査	9
	6	流動資産(棚卸資産・その他の流動資産) 固定資産(有形固定資産)(リース取引) 固定資産(減価償却)(無形固定資産)	9
	7	固定資産(投資その他の資産) 1学期期末審査	7
		総合演習	
	8	『夏課題テスト』	4
	9	負債と純資産 負債 純資産 損益計算 損益計算の意味と基準	12
2 学 期	10	営業損益の計算 経常損益の計算(営業外損益) 2学期中間審査 経常損益の計算(外貨建取引) 当期純利益の計算(特別損益)	12
	11	当期純利益の計算(法人税等) 財務諸表の作成 貸借対照表の作成 損益計算書の作成	12
	12	その他の財務諸表の作成 財務諸表の活用 財務諸表分析 2学期期末審査 連結財務諸表の活用	8
3 学 期	1	『冬課題テスト』 連結財務諸表 連結財務諸表の作成 [全商簿記実務検定試験 会計]	8
	2	総合演習	8
	3	学年末審査	7
		振り返り	

5 その他

この授業では、「簿記」で学んだ知識や技術を基礎として、財務諸表に関する深い知識や技術を学習し、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度および提供された会計情報を活用する能力と態度を育てることを目的としています。みなさんが実社会に出たときに、活躍できるように頑張りましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	財務会計Ⅰ	単位数	4単位
		学年等	2年生(会計マネジメントコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動として①全商簿記実務検定会計への合格に見合う知識・技術の育成や②日商簿記検定2級への合格に見合う知識・技術の育成を位置付け、これらに取り組むことを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を以下のとおり育成することを目指します。 (1)財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。 (3)会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	高校財務会計Ⅰ 新訂版(実教出版) 最新段階式 日商簿記検定問題集2級商業簿記(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	企業会計に関する法規に照らして会計処理方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析している。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1期	(1)財務会計の概要	定期考査2回	ノート提出2回	授業観察及び提出物の状況
	(2)会計処理			
	評価点	200点	200点	200点
2期	(3)財務諸表の作成	課題考査1回 定期考査2回	ノート提出2回	授業観察及び提出物の状況
	(4)財務諸表分析の基礎			
	評価点	200点	200点	200点
3期	(5)資格取得目標実現に向けて	課題考査1回 定期考査1回	頑張り度テスト1回 ノート提出1回	授業観察及び提出物の状況
	(6)資格取得目標実現に向けて			
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	(1)財務会計の基礎 第1章 企業と企業会計 & 第2章 企業会計制度と基準 & 第3章 企業会計の歴史	11
	5	(2)資産 第4章 資産の意味と分類 第5章&第6章 流動資産(その1)&(その2) 第7章～第10章 固定資産(その1)～(その4)	9
		ノート提出・1学期中間考査	18
	5	(3)負債と純資産	
	6	第11章 負債 & 第12章 純資産	
		(4)損益計算 第13章 損益計算の意味と基準 & 第14章 営業損益の計算	12
	7	ノート提出・1学期期末考査 第15章 経常損益の計算 & 第16章 当期純利益の計算	
2 期	8	夏休み明け考査	6
	9	(5)財務諸表の作成 第17章 貸借対照表の作成 第18章 損益計算書の作成	18
	10	第19章 その他の財務諸表の作成	12
		ノート提出・2学期中間考査	
	11	(6)連結財務諸表 第20章 連結財務諸表の目的と連結の範囲 第21章 連結財務諸表の作成(その1)	16
		ノート提出・2学期期末考査	
	12	第22章 連結財務諸表の作成(その2) (7)財務諸表の活用 第23章 財務諸表分析	8
3 期	1	冬休み明け考査 学習到達目標①(全商簿記実務検定 会計)の実現に向けて …… 目標実現に向けた探究活動 頑張り度テスト	12
	2	学習到達目標②(日商簿記検定2級)の実現に向けて 目標実現に向けた探究活動	14
	3	ノート提出・学年末考査	4

5 その他

一つ一つの会計処理における科学的根拠の理解が、実務能力の向上に繋がります。その力を、問題を解くことを通して養っていくようにしましょう。「なぜ、そうするのか？」物事を論理的に考えるよう努めましょう。高校卒業後の進路選択の幅を広げるために、学習到達目標の実現は重要です。授業で学習してきた内容を、しっかり理解しているかを図る一つの指標であり大切なことです。と同時に、どのようにして学習到達目標を実現したかという過程を大切にしたいと思っています。そのためには復習する習慣を付けて欲しいと思っています。復習する習慣力や目標を達成するまでの過程で培われた準備力や段取り力・集中力が、卒業後の人生に大いに役立つと思っています。この科目の学習を通して、目標への対峙の仕方、準備力や段取り力・集中力を身につけ、自分自身への理解や成長を遂げて、新しい自分の創造を果たして欲しいと思っています。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	原価計算	単位数	3単位
		学年等	2年生(金融ライフデザインコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)原価計算, 原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)原価計算, 原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	原価計算(実教出版) 反復式 原価計算問題集 全商 1 級原価計算(実教出版) 全商簿記実務検定模擬問題集 全商 1 級原価計算(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術はもとより、さらに実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ知識と技術が身についている。	原価計算に関する会計処理および原価情報の活用の方法の妥当性と実務に適用することにもなう課題を見いだすとともに、原価情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。	みずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用責任をもって取り組む態度が身についている。
評価点	350点	350点	350点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 期	第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算	定期テスト2回	定期テスト2回	・授業中の行動観察 ・小テスト ・学習課題の提出状況
	評価点	100点	100点	100点
2 期	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算 第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第13章 決算と本社・工場間の取引	課題テスト1回 定期テスト2回	課題テスト1回 定期テスト2回	・授業中の行動観察 ・小テスト ・学習課題の提出状況

	評価点	150点	150点	150点
3期	第5編 標準原価計算の基礎	課題テスト1回 定期テスト1回	課題テスト1回 定期テスト1回	・授業中の行動観察 ・小テスト ・学習課題の提出状況
	第6編 直接原価計算の基礎 まとめ 原価計算に関するテーマ別研究			
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1期	4	第1編 原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算 第2章 原価計算のあらまし 第3章 工業簿記—製造業における簿記	5 8 8
	5	第2編 原価の費目別計算 第4章 材料費の計算 第1学期中間テスト 第5章 労務費の計算 第6章 経費の計算	7
	6	第3編 原価の部門別計算と製品別計算	12
	7	第7章 個別原価計算 第1学期期末テスト	
	8	 夏休み明け課題テスト	
	9	第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算 第2学期中間テスト	8 14
	10	第10章 工程別総合原価計算	
2期	11	第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	
	12	第4編 製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売 第2学期期末テスト 第13章 決算と本社・工場間の取引	2 5
	1	 冬休み明け課題テスト	
	2	第5編 標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算(その1) 第15章 標準原価計算(その2)	6
	3	第6編 直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算(その1) 第17章 直接原価計算(その2) 全商簿記実務検定「原価計算」取得の実現に向けた探究活動	8 5 7
3期	2	 全商簿記実務検定 1級「原価計算」受験	
	3	原価計算に関するテーマ別研究活動	10

5 その他

まず、日々の授業と家庭学習を大切にしてください。その日に習った範囲を、教科書を読んで復習する習慣を身に付け、板書しない事項についても、重要事項は自ら必要に応じてノートにまとめるようにしましょう。

問題を機械的に解くのではなく、なぜそのような解き方になるのかを理論的に覚えることが重要です。そのためには、解答方法を図式化するなど、工夫するとよいでしょう。例えば、問題を解く際、計算が必要な時は、電卓を入れるだけでなく、Tホームを描き、そこに金額を記入し、その意味や前後のことを考えて、求められている解を導き出す習慣を身に付けければ、原価計算だけにとどまらない、他の教科などに転用・応用できる能力を身に付けることができるでしょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	原価計算	単位数	4単位
		学年等	2年生(会計マネジメントコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	原価計算(実教出版) 最新段階式 日商簿記検定模擬問題集2級工業簿記(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	原価計算、原価計算に関する会計処理および原価情報の活用に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	原価計算に関する会計処理および原価情報の活用方法の妥当性と実務に適用することにもなう課題を見だし、原価計算に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。	みずから原価計算について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、適切な原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算などによる原価情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身についている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1編 原価計算の基礎 第2編 原価の費目別計算 第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第7章 個別原価計算 第8章 部門別個別原価計算 第9章 総合原価計算	定期テスト2回	ノート提出2回	・授業中の行動観察 ・課題の提出状況
	評価点	200点	200点	200点
2	第3編 原価の部門別計算と製品別計算 第9章 総合原価計算 第10章 工程別総合原価計算の特色・種類 第11章 総合原価計算における減損・仕損 第5編 標準原価計算の基礎	課題テスト1回 定期テスト2回	ノート提出2回	・授業中の行動観察 ・課題の提出状況
	評価点	200点	200点	200点
3	第4編 製品の完成・販売と決算 第6編 直接原価計算の基礎 まとめ 原価計算に関するテーマ別研究	課題テスト1回 定期テスト1回	ノート提出1回 頑張度テスト1回	・授業中の行動観察 ・課題の提出状況
	評価点	200点	200点	200点

	評価点	200 点	200 点	200 点
--	-----	-------	-------	-------

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
	4	(1)原価計算の基礎 第1章 原価と原価計算	2
		第2章 原価計算のあらまし	2
	5	第3章 工業簿記 (2)原価の費目別計算	
		第4章 材料費の計算と記帳仕訳と転記	6
		第5章 労務費の計算と記帳	6
		第6章 経費の計算と記帳	6
		ノート提出・1学期期中間試験	
	6	(3)原価の部門別計算と製品別計算	
	7	第7章 個別原価計算	8
		第8章 部門別個別原価計算	8
		第9章 総合原価計算	
		総合原価計算の特色・種類	4
		単純総合原価計算	
		ノート提出・1学期期末試験	10
	8	夏休み明け課題試験	
	9	第9章 組別総合原価計算	10
		第10章 工程別総合原価計算	10
	10	工程別総合原価計算(半製品)	10
		第11章 総合原価計算における減損・仕損処理	4
		ノート提出・2 学期中間試験	
	11	(5)標準原価計算の基礎 第14章 標準原価計算その 1	16
		第15章 標準原価計算その 2	
	12	ノート提出・2 学期期末試験	12
		冬休み明け課題試験	
	1	(4)製品の完成・販売と決算 第12章 製品の完成と販売	12
		第13章 決算と本社・工場の取引	
		頑張り度テスト	
	2	(6)直接原価計算の基礎 第16章 直接原価計算による損益計算書	14
		第17章 直接原価計算 CVP 分析 原価予測	
	3	ノート提出・学年末試験	

5 その他

日々の授業と家庭学習を大切にしてください。その日に習った範囲を、教科書を読んで復習する習慣を身に付け、重要事項は自ら必要に応じてノートにまとめるようにしましょう。問題を機械的に解くのではなく、なぜそのような解き方になるのかを理論的に覚えることが重要です。そのためには、Tホームを描き、そこに金額を記入し、その意味や前後のことを考えて、求められている解を導き出す習慣を身に付ければ、原価計算だけにとどまらない、他の教科などに転用・応用できる能力を身に付けることができるでしょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	ソフトウェア活用	単位数	3単位
		学年等	2年生(流通マーケティングコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	ソフトウェア活用(実教出版) 学習と検定 全商情報処理検定テキスト ビジネス情報部門1級(実教出版) 全商ビジネス文書検定模擬問題集2級

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	企業においてソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業においてソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動においてソフトウェアの活用を主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	第1章 企業活動とソフトウェアの活用 第2章 情報通信ネットワークの活用 第3章 表計算ソフトウェアの活用	・定期考査2回 (中間・期末)	・定期考査2回 (中間・期末)	・学習課題等2回 (課題・GW・中間・期末) ・ワークシート
	評価点	100点	100点	100点
2	第4章 テータベースソフトウェアの活用 第5章 業務処理活用ソフトウェアの活用	・定期考査2回 (中間・期末)	・定期考査2回 (中間・期末)	・学習課題等2回 (中間・期末) ・ワークシート
	評価点	100点	100点	100点
3	第6章 情報システムの開発	・定期考査2回 (課題・学年末)	・定期考査2回 (課題・学年末)	・学習課題等2回 (課題・学年末) ・検定取り組み1回
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1	4	第1章 企業活動とソフトウェアの活用	8
		1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用	
	5	2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	9
		第2章 情報通信ネットワークの活用	
		1節 情報通信ネットワークの導入と運用	
1	6	2節 情報資産の保護	
		—— 中間考查	11
		第3章 表計算ソフトウェアの活用	
		1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の収集と分析	
	7	2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズリサーチ	9
1		3節 手続きの自動化	
		ビジネス文書検定	
		—— 期末考查	
2	8	第4章 データベースソフトウェアの活用	
		1節 ビジネスとデータベース	4
	9	2節 データベースの作成と操作	
		3節 手続きの自動化	11
		4節 データベースの構造	
	10	5節 SQL の操作	
		(情報処理検定)	9
		—— 中間考查	
	11	第5章 業務処理活用ソフトウェアの活用	
		1節 グループウェアの活用	10
2		2節 販売管理ソフトウェアの活用	
	12	3節 給与計算ソフトウェアの活用	
		ビジネス文書検定	7
		—— 期末考查	
3	1	—— 課題考查	
		全商情報処理検定	11
		第6章 情報システムの開発	
	2	1節 システムの開発の基礎	10
		2節 アルゴリズムの基礎	
		3節 情報システムの開発演習	6
	3	—— 学年末考查	

5 その他

流通マーケティングコースで学習している内容を踏まえ、効果的にマーケティングを展開するために、ソフトウェア(主に Word, Excel)を活用する資質・能力、関連する技術を身につけていきます。また、自ら課題を発見し、自ら学び、顧客の創造、顧客価値の創造などマーケティングの考え方を取り入れ、ソフトウェアを活用しながら課題を創造的に解決する力を身につけています。全商情報処理検定・全商ビジネス文書検定1級の内容も取り入れた授業展開です。計画を立て、上位級の検定取得も目指してください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	ソフトウェア活用	単位数	3単位
		学年等	2年生 (ビジネス実務コース・観光ビジネスコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	ソフトウェア活用(実教出版) 全商ビジネス文書検定模擬問題集1級(実教出版) 紙ファイル(A4) } 1年次使用のものを継続使用可 ノート(A4)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1期	企業活動とソフトウェアの活用 ビジネスシーンを想定した文書作成Ⅰ	・定期試験 (中間・期末) ・小テスト	・定期試験 (中間・期末) ・小テスト	・学習課題 ・授業への取組状況
	評価点	100点	100点	100点
2期	表計算ソフトウェアの活用 ビジネスシーンを想定した文書作成Ⅱ 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 業務処理用ソフトウェアの活用	・定期試験 (中間・期末) ・課題テスト ・小テスト	・定期試験 (中間・期末) ・課題テスト ・小テスト	・学習課題 ・授業への取組状況
	評価点	100点	100点	100点
3期	アルゴリズムの基礎 情報システムの開発	・定期試験 ・課題テスト ・小テスト	・定期試験 ・課題テスト ・小テスト	・学習課題 ・授業への取組状況
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	企業活動とソフトウェアの活用	9
	5	ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	10
		-----中間試験	12
	6	ビジネスシーンを想定した文書作成Ⅰ ビジネス文書の作成基礎	10
	7	-----期末試験	
2 期	8	-----夏休み明け課題テスト	
		ビジネスシーンを想定したビジネス文書作成Ⅱ	4
	9	ビジネス文書の作成応用 表計算ソフトウェアの活用	12
		-----中間試験	
	10	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 統計の分析	12
	11	情報の集計	
	12	情報の分析	
		-----期末試験	10
3 期	1	-----冬休み明け課題テスト	
		アルゴリズムの基礎 アルゴリズムの流れ図	7
	2	アルゴリズムの基本設計	8
	3	情報システムの開発 情報システムの開発演習 表計算ソフトウェアによる情報システム開発	8 3
		-----学年末試験	

5 その他

ビジネス実務・観光コースで学習している内容を踏まえ、効果的に業務を展開するために、ソフトウェア(主に Word, Excel)を活用する資質・能力、関連する技術を身につけていきます。また、自ら課題を発見し、自ら学び、顧客の創造、顧客価値の創造など接客応対・観光商品の作成への考え方を取り入れ、ソフトウェアを活用しながら課題を創造的に解決する力を身につけています。全商情報処理検定・全商ビジネス文書検定1級の内容も取り入れた授業展開です。計画を立て、上位級の検定取得も目指してください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	ソフトウェア活用	単位数	2単位
		学年等	2年生(会計マネジメントコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。 (希望受験)全商ビジネス文書検定1・2級, 全商情報処理検定ビジネス情報部門1・2級
使用教科書 副教材等	ソフトウェア活用(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1期	企業活動とソフトウェアの活用 情報通信ネットワークの活用 ビジネス文書の作成Ⅰ	筆記試験	実技試験	学習課題等
	評価点	100点	100点	100点
2期	ビジネス文書の作成Ⅱ 表計算ソフトウェアの活用 財務諸表分析 手続きの自動化(VBA)	小テスト 定期試験等	小テスト 定期試験等	学習課題等
	評価点	100点	100点	100点
3期	プレゼンテーション プレゼンテーションの技法 ビジネスにおけるプレゼンテーション プレゼンテーションソフトウェアによる作品制作・発表	作品制作 総合演習	作品制作 総合演習	作品制作 総合演習
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	企業活動とソフトウェアの活用 ・ビジネスにおけるソフトウェア活用 ・ビジネスにおけるソフトウェアの進化	6
	5	情報通信ネットワークの活用 ・情報通信ネットワークの導入と運用 ・情報資産の保護	6
	6	ビジネスシーンを想定した文書作成 I ・ビジネス文書の作成	7
	7	・問題演習	6
2 期	8	ビジネスシーンを想定したビジネス文書作成 II ・応用文書の作成 ・問題演習	3
	9	表計算ソフトウェアの活用 ・表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	7
	10	・表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ 財務諸表分析	7
	11	手続きの自動化(VBA)	7
	12	----- 2学期期末試験 ・VBA 演習	6
3 期	1	プレゼンテーション ・プレゼンテーションの技法	6
	2	ビジネスにおけるプレゼンテーション	6
	3	プレゼンテーションソフトウェアによる作品製作・発表	3

5 その他

--

年間指導計画表(シラバス)

科目名	ソフトウェア活用	単位数	4単位
		学年等	2年生(IT エンジニア)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)企業においてソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)企業においてソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 情報技術全般に関する基礎的な知識を活用し、情報システム開発においてプログラム設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者としての知識・技能について学習する。 (1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容を理解する。 (2) ビジネスにおける業務知識を含めた総合的な学習を行う。 挑戦する資格:基本情報午前免除認定試験(12月・1月) 経済産業省基本情報技術者試験(CBT方式:3学年受験) ≪プログラミングと連携≫ 全商情報処理検定ビジネス情報部門1級(1月)
使用教科書 副教材等	ソフトウェア活用(実教出版) 全商情報処理検定模擬問題集1級ビジネス情報編(実教出版) IT戦略とマネジメント(株式会社インフォテック・サーブ) ITワールド(株式会社インフォテック・サーブ) 基本情報技術者科目A問題集(株式会社インフォテック・サーブ)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	企業においてソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業においてソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動においてソフトウェアの活用を主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。
評価点	600点	600点	600点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1期	第1章 企業活動とソフトウェアの活用	・定期考査2回	・定期考査2回	・学習課題等4回
	第2章 情報通信ネットワークの活用	(中間・期末)	(中間・期末)	(課題・GW・中間・期末)
2期	第3章 表計算ソフトウェアの活用	・小テスト	・小テスト	・ワークシート
	評価点	200点	200点	200点
3期	第4章 テータベースソフトウェアの活用	・定期考査3回	・定期考査3回	・学習課題等3回
	第5章 業務処理活用ソフトウェアの活用	(課題・中間・期末)	(課題・中間・期末)	(課題・中間・期末)
4期	第6章 情報システムの開発	・小テスト	・小テスト	・ワークシート
	評価点	200点	200点	200点
5期	第7章 情報システムの開発	・定期考査2回	・定期考査2回	・学習課題等2回
	第8章 情報システムの開発	(課題・学年末)	(課題・学年末)	(課題・学年末)
6期	第9章 情報システムの開発	・定期考査2回	・定期考査2回	・検定取り組み1回
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期		課題考查	—
	4	第1章 企業活動とソフトウェアの活用	14
		1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用	
	5	2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	
		第2章 情報通信ネットワークの活用	
		1節 情報通信ネットワークの導入と運用	28
		2節 情報資産の保護	
	6	中間考查	—
		第3章 表計算ソフトウェアの活用	28
	7	1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の収集と分析	
		2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズリサーチ	
		3節 手続きの自動化	
		期末考查	—
2 期		課題考查	—
	8	第4章 データベースソフトウェアの活用	9
		1節 ビジネスとデータベース	
		2節 データベースの作成と操作	
		3節 手続きの自動化	
	9	4節 データベースの構造	24
		5節 SQL の操作	
	10	中間考查	—
	11	第5章 業務処理活用ソフトウェアの活用	24
		1節 グループウェアの活用	
	12	2節 販売管理ソフトウェアの活用	
		3節 給与計算ソフトウェアの活用	—
		期末考查	
		午前免除認定試験	—
3 期	1	課題考查	—
		全商情報処理検定 (午前免除認定試験)	41
	2	第6章 情報システムの開発	
		1節 システムの開発の基礎	
		2節 アルゴリズムの基礎	—
	3	3節 情報システムの開発演習	
		学年末考查	—

5 その他

- 個人情報や知的財産の保護, 情報の管理, 発信する情報に対する責任など情報を扱う者としての役割と責任について理解を深めること。
- 各種ソフトウェアの操作方法を習得することにとどまらず, 情報を扱う具体的な場面を想定し, 情報を収集・処理・分析し, 表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行い, 情報を適切に扱うことができるようにすること。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	プログラミング	単位数	3単位
		学年等	2年生(ITエンジニアコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 企業活動に有能なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。 挑戦する資格:全商情報処理検定プログラミング部門1級(9月) 経済産業省基本情報技術者試験(CBT 方式:3学年受験)《ソフトウェア活用と連携》
使用教科書 副教材等	最新プログラミング オブジェクト指向プログラミング(実教出版) 基本情報技術者科目 B 問題集【第2版】(株式会社インフォテック・サーブ)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動に有能なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協同的に取り組む態度が身に付いている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 期	5 章 ハードウェアとソフトウェア 1 章 情報システムとプログラミング 2章 アルゴリズム	・定期テスト2回 (期末)	・定期テスト2回 (期末)	・学習課題等
	評価点	100点	100点	100 点
2 期	3章 プログラムと情報システムの開発	・定期テスト3回 (課題・中間・期末)	・定期テスト3回 (課題・中間・期末)	・学習課題等
	評価点	150 点	150 点	150 点
3 期	4章 情報システムの開発演習	・定期テスト1 回 (学年末)	・定期テスト1 回 (学年末)	・学習課題等
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	5 章 ハードウェアとソフトウェア 1 節 データの表現 2 節 ハードウェアの機能と動作	7
	5	3 節 ソフトウェアの体系と役割 4 節 情報セキュリティ	
		中間考査	3
	6	1 章 情報システムとプログラミング	
	7	1 節 情報システムの重要性 2 節 プログラミング言語の種類と特徴 3 節 プログラミングの手順	
		2 章 アルゴリズム 1 節 アルゴリズムの表現技法 2 節 基本的なアルゴリズム 3 節 応用的なアルゴリズム	26
		期末考査	
	8	課題考査 全商情報処理検定	
	9	3 章 プログラムと情報システムの開発	21
	10	1 節 情報システム開発の手法と手順 2 節 プロジェクト管理 3 節 オブジェクト指向型言語の利用	
2 期		中間考査	21
	11	4 節 オブジェクト指向型言語によるクイズアプリの開発	
	12	5 節 情報システムの評価と改善	
		期末考査	
3 期	1	4 章 情報システムの開発演習	27
	2	4 節 データベースとの連携	
	3	5 節 携帯型情報通信機器用ソフトウェアの活用	
		学年末考査	

5 その他

1. ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、プログラムと情報システムの開発に取り組む実践的・体験的な学習活動を行う。
2. 企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発について、組織の一員としての役割を果たすことができるようになる。
3. 情報技術の進歩に留意する。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	ネットワーク活用	単位数	4単位
		学年等	2年生(ネットビジネスコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるインターネットの活用に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるインターネットの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	ネットワーク活用(実教出版) よくわかるマスターITパスポート試験書いて覚える学習ドリル(FOM出版) 学習と検定 全商情報処理検定テキストビジネス情報部門1級(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	ビジネスの様々な場面で役に立つインターネットの効果的な活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	日々変化していく情報化社会に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	インターネットを活用する力の向上を目指して自ら学び、ビジネス社会に通用する効果的な情報発信の取り組みに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 期	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス	定期考査 2回	定期考査 2回	学習課題
	第2章 情報コンテンツの制作			授業への取組状況
	合計	100点	100点	100点
2 期	第3章 企業情報の発信とWeb	定期考査 3回	定期考査 3回	学習課題
	第4章 インターネットと情報セキュリティ ○ネットショップ実習(企業連携)			授業への取組状況
	合計	100点	100点	100点
3 期	第5章 電子商取引とビジネス	定期考査 2回	定期考査 2回	学習課題
	○ネットショップ企画・運営			授業への取組状況
	合計	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	第1章 情報通信技術の進歩とビジネス 1節 ICTにより創造される新しいビジネス	24
	5	2節 個人情報と知的財産の保護 3節 関連法規とガイドライン -----1学期中間考査	
	6	第2章 情報コンテンツの制作 1節 図形と静止画	
	7	2節 音声と動画 -----1学期期末考査	31
2 期	8	-----課題考査	25
		第3章 企業情報の発信とWebデザイン	
	9	1節 Webページの政策とデザイン 2節 Webページ制作の基礎 3節 Webページ制作の応用 -----2学期中間考査	
	10	第4章 インターネットと情報セキュリティ	26
	11	1節 インターネットのしくみ 2節 ハードウェアとソフトウェアの導入	
	12	3節 情報セキュリティの確保 ○ネットショップ実習(企業連携) ・企業開拓 ・電話応対 -----2学期期末考査	
3 期		-----課題考査	14
	1	第5章 電子商取引とビジネス 1節 ネットワークを用いたビジネスと電子決済	
	2	2節 電子商取引サイトの開店準備 3節 Webページ制作と集客方法	
	3	4節 ビジネスの創造	
		○ネットショップ企画・運営 ○仮想空間における素材づくり -----学年末考査	20

5 その他

学習した知識を、実際の取引に生かせるので、非常にやりがいや達成感が感じられる科目だと思います。コースアドバイザーや企業の方々のアドバイスを自分のものにしながら、成長していきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	商業デザインⅠ(学)	単位数	4単位
		学年等	2年生(広報プロデュースコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、広報・広告に関するビジネス活動に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 広報・広告について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 広報・広告に関するビジネス上の課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 経済社会の状況を把握する力の向上を目指して自ら学び、広報・広告を効果的に活用し主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	「伝わる」デザインの考え方(細山田デザイン事務所著) デザイン初心者のための Photoshop Illustrator 先輩に聞かずに9割解決できる グラフィックデザイン超基礎(Power Design Inc. 著) 入門マルチメディア[第二版] (公益財団法人画像情報教育振興協会(CG-ARTS 協会))

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学 習に取り組む態度
趣旨	地域社会や経済の状況を把握しながら、広報・広告について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	広報・広告に関するビジネス上の課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決し、表現するなど、理論立てて探究している。	経済社会の状況を把握する力の向上を目指して自ら学び、広報・広告を効果的に活用し主体的かつ協働的に取り組み、自身の学びを振り返り改善するなど、計画的に探究しようとしている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学 期	商業デザインの基礎 知的財産権 色の基礎知識 作品制作	・定期試験等 ・作品課題	・定期試験等 ・ワークシート等	・授業観察 ・振り返りシート
	評価点	100点	100点	100点
2 学 期	マルチメディアに関する学習① 作品制作	・定期試験等 ・作品課題	・定期試験等 ・ワークシート等	・授業観察 振り返りシート
	評価点	100点	100点	100点
3 学 期	マルチメディアに関する学習② 作品制作 振り返り	・定期試験等 ・作品課題	・定期試験等 ・ワークシート等	・授業観察 ・振り返りシート
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	商業デザインの基礎 ・伝わるデザインを作るためには ・プロのデザインの学習と手順 ・文字と書体(フォント) ・レイアウト・印刷 デザイン技術Ⅰ ・Photoshop ・Illustrator 作品制作Ⅰ・Ⅱ	12
	5	知的財産権 ・産業財産権(特許, 実用新案, 意匠, 商標) ・著作権	10
	6	色の基礎知識 ・配色 ・色の効果 ・生活空間の色 ・色のイメージ ・広告の色	14
	7	作品制作Ⅲ(外部提出:啓発動画) ・絵コンテ制作 作品制作Ⅳ(外部提出:全商ポスター) ・絵コンテ制作	
		-----1学期期末試験-----	
2 学 期	8	作品制作Ⅴ(外部応募:電子メディア啓発動画コンテスト制作(広島市主催)) 提出用作品制作	6
	9	作品制作Ⅵ(外部応募:ポスター制作(全国商業高等学校協会主催)) 提出用作品制作	16
	10	マルチメディアに関する学習① ・デザイン技術Ⅱ(静止画) ・撮影の基礎 ・撮影技術演習	16
		作品制作Ⅶ	16
	11	-----2学期期末試験-----	
	12	作品制作Ⅷ・Ⅸ(次年度版 市商リーフレット, 市商ポスター制作)	12
3 学 期	1	作品制作Ⅹ・Ⅺ(次年度版 市商リーフレット, 市商ポスター制作) ・作品コンペティション	10
	2	マルチメディアに関する学習② ・デザイン技術Ⅱ(インタビュー動画)	10
	3	・撮影の基礎 ・撮影技術演習 作品制作Ⅻ	6
		-----学年末考査----- 振り返り	

5 その他

この授業では、広報・広告を活用して、「情報を受発信する力」を身に付けるために、総合的に学んでいきます。自分の目で見て感じたことをデザインにしたり、聞いたことを自分の言葉で発信したりします。その力を社会貢献につなげるために、まずは、広報・広告に関する基礎・基本の知識をしっかりと身に付けていきましょう。また、実社会の実務を想定して、他の人との対話や協働作業を繰り返しながら、作品を制作していきます。自分の意見や考えをしっかりと相手に伝える力、また、傾聴力も身に付けられるように頑張っていきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	ファイナンシャルプランニング I (学)	単位数	4単位
		学年等	2年生(金融ライフデザインコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、金融に関するビジネス活動に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)金融・経済について実務に即した知識を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2)金融・経済に関する各指標を計算し分析する力を身につけるとともに、自らのライフプランを思考し、課題を解決する力を習得する。 (3)金融・経済に係る社会の課題について考察し、主体的かつ協働的に解決する能力を養う。
使用教科書 副教材等	わかる！FP技能士3級最速テキスト 2025-2026(日本経済新聞出版社) わかる！FP技能士3級最速問題集 2025-2026(日本経済新聞出版社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・FPに関する基礎的・基本的な知識と見識を体系的・系統的に理解している。 ・ライフプランニングの必要性を理解し、自らの将来について幅広く考察できるようなFPに関連する技術を身に付けている。	・FPに関する諸問題を解決するために、ケーススタディーにより根拠を明確にしている確かな助言ができる力を身につけている。 ・課題を解決するために、学習した知識や見識を活用し、適切に判断して、創意工夫する能力を身につけている。	・FPに関する諸問題について関心をもち、それらを改善・向上させるために主体的、協働的に取り組む態度を身につけている。 ・FPに対して望ましい心構えや実践的な態度を身につけるとともに、自己実現に向けて意欲をもとうとする。
評価点	250点	250点	250点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 期	1章 ライフプランニングと資金計画 2章 リスク管理	・定期試験等 ・学科問題 小テスト	・定期試験等 ・実技問題 小テスト	・授業観察 ・提出物の状況
	評価点	100点	100点	100点
2 期	3章 金融資産運用 4章 タックスプランニング	・定期試験等 ・学科問題 小テスト	・定期試験等 ・実技問題 小テスト	・観察授業 ・提出物の状況
	評価点	100点	100点	100点
3 期	5章 不動産	・定期試験等 ・学科問題 小テスト	・定期試験等 ・実技問題 小テスト	・観察授業 ・提出物の状況
	評価点	50点	50点	50点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	1章 ライフプランニングと資金計画 ・FPの基礎と関連法規 ・ライフプランニングと資金計画	12
	5	・社会保険制度(医療保険・介護保険・労災保険・雇用保険) ・公的年金制度(国民年金・厚生年金・障害年金・遺族年金) ・公的年金の税金 ＜1学期中間試験＞	12
	6	2章 リスク管理 ・保険の基礎知識 ・生命保険の基礎知識(税金を含む) ・個人年金保険 ・損害保険の基礎知識(税金を含む)	14
	7	・保険証券の見方 ＜1学期期末試験＞	10
2 期	8	3章 金融資産運用 ・金融・経済の基礎	6
	9	・貯蓄・債券, 株式, 投資信託, 外貨建て金融商品等の基礎知識 ・有価証券の税金 ・金融商品等に関連する法律等 ＜2学期中間試験＞	16
	10	4章 タックスプランニング ・所得税の基礎 ・所得の種類と内容 ・損益通算と繰越控除	16
	11	・所得税の申告と納付 ・個人住民税 ＜2学期期末試験＞	16
	12	5章 不動産 ・不動産の基礎知識	12
3 期	1	5章 不動産 ・不動産の基礎知識	10
	2	・不動産の税金	10
	3	・不動産の有効活用と投資判断指標 ＜学年末試験＞	6

5 その他

一人ひとりの夢や目標をかなえるために、ライフスタイルや価値観、経済環境を踏まえながら、あらゆるデータを集めて、現状を分析します。その上で、総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法がファイナンシャルプランニングです。これらには、家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、生命保険、年金制度などの幅広い知識が必要となります。みなさんには、なじみがない内容を学習していきます。難しい内容もありますが、知識や理解を深めるためには、1時間の授業を大切に、学習を進めていくことが大切です。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	オフィス実務 I (学)	単位数	4単位
		学年等	2年生(ビジネス実務コース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、ビジネスシーンに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)ビジネスシーンでの実務を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)ビジネスシーンに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3)ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスシーンにおいて主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	高校生からのビジネスマナー(実教出版) みんなが欲しかった！社労士合格へのはじめの一步(TAC 出版) 秘書検定2級実問題集2025 年度版(早稲田教育出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	ビジネススキルに関する知識を理解するとともに、他者への対応について組織の一員としての役割を果たすことができる技術を身に付けている。	ビジネスにおける思考の方法について学ぶとともに、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する知識などをもとに、その意義と課題について主体的に考えるとともに他者と連携することにより、協働的に取り組む態度を身に付けている。
評価点	300点	300点	300点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 期	1章 社会人の心構えと働き方 2章 ビジネスマナー①② 資格取得目標(秘書検定3級)実現に向けて プロジェクト(一日体験入学)の計画・運営	定期考査2回	定期考査2回	実技テスト 授業観察 提出物の状況
	評価点	100 点	100 点	100 点
2 期	プロジェクト(オープンスクール)の運営 2章 ビジネスマナー③④ 3章 ビジネススキル 4章 ビジネス関連知識 プロジェクト(ピースデパート)の運営	定期考査 2 回	定期考査2回	実技テスト 授業観察 提出物の状況
	評価点	100 点	100 点	100 点
3 期	資格取得目標(秘書検定 2 級)実現に向けて 秘書検定準1級面接の模擬試験 CHAPTER4 雇用保険法	小テスト 定期考査 1 回	小テスト 定期考査 1 回	実技テスト 授業観察 提出物の状況
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 学 期	4	1章 社会人の心構えと働き方 ・仕事のルールと自己管理, 働く姿勢, 機密事項の保持 ・チームの一員として働く心構え ・SNS(携帯電話)の使い方とマナー	12
	5	・ビジネスマナーの重要性 2章 ビジネスマナー① ・挨拶とお辞儀 ----- 1学期中間考査 ----- ・冠婚葬祭と贈答のマナー	12
	6	資格取得目標(秘書検定3級)実現に向けて 2章 ビジネスマナー② ・身だしなみの基本	14
	7	・会話の基本, クッション言葉 ・敬語の使い方 ・電話の応対 ----- 1学期期末考査 ----- プロジェクト(一日体験入学)の計画・運営	10
2 学 期	8	2章 ビジネスマナー③ ・訪問のマナー	6
	9	・受付対応と案内, お茶出しのマナー プロジェクト(オープンスクール)の運営 ----- 2学期中間試験 -----	16
	10	2章 ビジネスマナー④ ・席次, テーブルマナー 3章 ビジネススキル	16
	11	・苦情対応	16
	12	・会議について, ビジネス文書, 仕事の進め方 プロジェクト(広島市商ピースデパート)の運営 ----- 2学期期末試験 -----	12
		4章 ビジネス関連知識 ・企業の役割, 経営組織, 社会的責任 ・雇用契約と就業規則	
3 学 期	1	・雇用に関する法令	10
	2	資格取得目標(秘書検定2級)実現に向けて 秘書検定準1級面接の模擬試験 ----- 学年末考査 -----	10
	3	振り返り	6

5 その他

社会人に必要なビジネスマナーを学習し、ビジネス活動におけるコミュニケーション能力を身に付けます。組織の一員として他者と協働し、どのような実務を行うのかについて学ぶことで、知識として「わかる」授業から、実践を行いながら「できる」授業へと展開していきます。そのことで確実に技術が身に付きます。授業では毎時間、接客対応8大用語にも取り組みます。学習した内容を確認するために資格取得目標である『秘書検定2級』の取得も目指します。

学ぶだけでなく、自分で考え、身体を動かし、声を出し、恥ずかしさを乗り越えて前向きに取り組むことが一番の上達方法です。マナーとは『思いやりの心を行動で表すこと』『相手に嫌な思いをさせない心配り』です。日頃から自分ならどう行動し、表現するのかを考えながら過ごすことで自然と社会人に必要なスキルが身に付きます。

まずは、「休まないこと」「遅刻をしないこと」「期日を守ること」です。一緒に頑張りましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	マルチメディア	単位数	3単位
		学年等	2年生(ネットビジネスコース)

1 学習の到達目標等

学習の 到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなど通して、ビジネスにおけるマルチメディアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ビジネスにおけるマルチメディアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおいてマルチメディアを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマルチメディアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
使用教科書 副教材等	入門マルチメディア[第二版](公益財団法人画像情報教育振興協会(CG-ARTS)) 世界一わかりやすい Illustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書 CC/CS6 対応版(株式会社技術評論社)

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	ビジネスにおけるマルチメディアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	ビジネスにおいてマルチメディアを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマルチメディアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価点	300 点	300 点	300 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学 期	マルチメディアⅠ Illustrator&Photoshop の基本Ⅰ マルチメディアⅡ	・定期考査等 ・小テスト ・制作作品	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析	・ワークシートの記述分析 ・作品制作への取り組み態度
	評価点	100 点	100 点	100 点
2 学 期	マルチメディアⅢ Illustrator&Photoshop の基本Ⅱ	・定期考査等 ・小テスト ・制作作品	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析	・ワークシートの記述分析 ・作品制作への取り組み態度
	評価点	100 点	100 点	100 点
3 学 期	ネットショップ素材制作 Illustrator&Photoshop の応用 Premiere Pro の基本 1年間の振り返り	・定期考査等 ・小テスト ・制作作品	・定期考査等 ・ワークシートの記述分析	・ワークシートの記述分析 ・作品制作への取り組み態度
	評価点	100 点	100 点	100 点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
1 期	4	マルチメディアⅠ アナログとデジタル 人間の感覚とコンテンツ ヒューマンインタフェース	6
	5	Illustrator&Photoshopの基本Ⅰ Illustratorの基本操作	8
	6	課題演習と作品制作	13
	7	マルチメディアⅡ デジタル端末 インターネットと通信 <定期試験>	9
2 期	8	マルチメディアⅢ インターネットで提供されるサービス	3
	9	インターネットビジネス デジタルとネットワークで進化するライフスタイル	12
	10	社会に広がるマルチメディア セキュリティと情報リテラシ	11
	11	問題演習	10
	12	Illustrator&Photoshopの基本Ⅱ Photoshopの基本操作	7
		課題演習と作品制作 <定期試験>	
3 期	1	Illustrator&Photoshopの応用 Illustratorの応用操作 Photoshopの応用操作 課題演習と作品制作	11
	2	Premiere Proの基本操作	12
	3	1年間の振り返り <定期試験>	3

5 その他

一斉授業形式による理論の理解と、それを活かした作品制作の実習とを織り交ぜ、知識はもとより、実践力をつけていきましょう。また、自分の作品のコンセプト、工夫点など、自分の言葉で表現できるよう、発表する場を設けていきます。また、授業での指示を顧客からの注文と見なして、決められた納期までにいかに高い完成度で制作していくかを問いたいと思います。